

|           |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |   |   |  |               |     |         |        |                                                                                       |     |    |     |         |    |
|-----------|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|--|---------------|-----|---------|--------|---------------------------------------------------------------------------------------|-----|----|-----|---------|----|
| 事業所名      |             | Linkerアミ                                                                                                                                                                                                                                                                                       |   |   |  | 支援プログラム（参考様式） |     | 作成日     | 2025 年 | 2 月                                                                                   | 1 日 |    |     |         |    |
| 法人（事業所）理念 |             | 「『生んでくれてありがとう』、『生まれて来てくれてありがとう』」を創る。                                                                                                                                                                                                                                                           |   |   |  |               |     |         |        |                                                                                       |     |    |     |         |    |
| 支援方針      |             | 問題行動の改善、未発達の部分の成長を促す事に特化した専門的な支援を実施。「預かるだけ」や「1つの領域だけ」の療育ではなく、総合的な療育を行う。問題行動、未発達の原因を観察→評価→仮説策定→個人に合わせた療育方法の選定。「寄り添う」「様子を見る」「この子の個性」などの抽象的な支援ではなく、「今、何をどのようにすべきか」を示す具体的な支援。個人の特性の問題から、集団生活に必要な力の獲得、環境調整までありとあらゆる支援を行う。                                                                           |   |   |  |               |     |         |        |                                                                                       |     |    |     |         |    |
| 営業時間      |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 9 | 時 |  | 00            | 分から |         | 13     | 時                                                                                     |     | 00 | 分まで | 送迎実施の有無 | あり |
|           |             | 支 援 内 容                                                                                                                                                                                                                                                                                        |   |   |  |               |     |         |        |                                                                                       |     |    |     |         |    |
| 本人支援      | 健康・生活       | まず「①正常発達上の行動の未獲得なのか、②何らかの問題により行動の未発達なのか」を整理し、②であれば「何が問題になっているか」、「どのような経験が必要か」を見つけ、提供していきます。①に関しては、経験値のある一定数に到達すると解消できますが、早く獲得して貰いたい場合は保護者様と相談しながら進めます。結果的に、利用児童の「今、できる能力上の最大限の活動」を引き出せます。例）集団活動、トイレトレーニング、偏食、散髪が苦手、目薬、荷物の整理～帰る準備、食べ歩きゼロ。                                                       |   |   |  |               |     |         |        |                                                                                       |     |    |     |         |    |
|           | 運動・感覚       | 運動・感覚面に関しては、ネット情報が氾濫しており、保護者様の認識も整理するためにまずはしっかりとした観察、評価を行う。アプローチとしては、自由遊びの中で個々人に合わせた身体の使い方を「創って」行きます。目的としては、運動・感覚に必須な「アクティブ性（自発性）」を作り出す事です。感覚から認知、情緒に運動していくが見落とされがちなので、しっかりと支援していく。                                                                                                            |   |   |  |               |     |         |        |                                                                                       |     |    |     |         |    |
|           | 認知・行動       | 独自のプログラムを作成し、設定療育をあえて行わず、自由遊びの中で自然発生する不適切行動に対して、大人が専門的且つ楽しく対応しながら利用児童に正しい行動を学習して貰う。例）①情緒コントロールプログラム：「自分でエンエンおしまい法」、「オンオフ切り替え法」、「皆と同じができました！法」等々。 ②視覚弁別、聴覚弁別プログラム：「逆模倣」、「動作模倣」、「宝探し法（視覚ver、聴覚ver）」、「視覚聴覚別のワーキングメモリ訓練法」等々。③自傷他害ゼロプログラム→「つば吐き卒業法」、「皆と遊ぶと楽しいね法」等々。                                 |   |   |  |               |     |         |        |                                                                                       |     |    |     |         |    |
|           | 言語コミュニケーション | 人間が言語を使う目的をスタッフがしっかり理解しているため、自由遊びの中で専門的に言語発達を促していく。無発語の児童や内向的な世界に入ってしまう児童には「1人の世界（内向的な世界）」に入らないように関わり続けながら、少しずつコミュニケーションを学んで自発的に言葉ができるように支援。言葉を使える児童はもっともっと言葉を使いたくなるような仕掛けを作り支援している。この際には視覚・聴覚の発達が重要になるため認知・行動面との関わり大きいです。また運動上の問題（口蓋等の構造上の問題、筋肉を動かす感覚上の問題）等も関連して来るので、運動・感覚面での観察・評価ともつながって来ます。 |   |   |  |               |     |         |        |                                                                                       |     |    |     |         |    |
|           | 人間関係社会性     | 人間関係、社会性は、認知、言語、コミュニケーション等のすべての項目と関係しているため、まずは各項目の支援をしっかりと行う。同時に、利用児童がその時に「どの社会（環境）に属しているか」を確認し、その社会（環境）の未成熟性を鑑みて保護者様と相談しながら支援していく。例）幼稚園と保育園の違い（両方、年齢的に未成熟な組織）、一人っ子と兄弟の違い、長男長女等の順番の違い、言語を獲得しているかどうかの違い（言語を獲得していなくても社会性の獲得は可能）。                                                                 |   |   |  |               |     |         |        |                                                                                       |     |    |     |         |    |
| 家族支援      |             | 問題行動や未発達の場合に対するアプローチをまずはディで行い（リハーサル）、次に保護者様に来て貰いアドバイス（技術獲得）、実際にご家庭でも実施して貰う（実践）。幼稚園等、ディ以外での行動に対する相談支援。                                                                                                                                                                                          |   |   |  |               |     | 移行支援    |        | 入園、入学時に利用児童の状況を説明する専門的な情報を提供。園や学校で上手く対応できない場合に訪問支援も可能。園や学校で実際に実施していただける現実的な方法をアドバイス。  |     |    |     |         |    |
| 地域支援・地域連携 |             | 他事業所との連携（西児連参加）、社会福祉協議会・子ども家庭支援課・保健センター等から支援の依頼を受け可能な限り対応、地域の高齢者・児童等が集えるイベントの開催（2025年に開催を目標）                                                                                                                                                                                                   |   |   |  |               |     | 職員の質の向上 |        | 実際に児童を現場で支援し実績を残されている有名な先生方の療育セミナーへの参加、福祉業界以外の多角的な学びの支援、事業所内の研修、有給休暇しっかり取得、年休125日以上確保 |     |    |     |         |    |
| 主な行事等     |             | 遠足、運動会、クリスマス会、保護者会、ペアレントトレーニング等                                                                                                                                                                                                                                                                |   |   |  |               |     |         |        |                                                                                       |     |    |     |         |    |